

ニ就キ考慮ヲ要ス

(三) 移住民ノ養成

四、水産ノ開拓

之ガ遂行ニ就キテハ

(一) 拓務省ニ專任水産技師ノ設置

(二) 南洋廳水産課ノ獨立

(三) 水産試驗場ノ獨立

(四) 全 分場ノ設置

(五) 全 調査船ノ建造

(六) 全 飛行機ノ利用

(七) 漁場ノ調査

等ヲ期ス。

- (八) 漁港ノ修築
- (九) 製氷、冷蔵ノ設備
- (十) 魚油ノ配給、設備
- (十一) 販路、、、市場、、、ノ開拓
- (十二) 養殖處理、加工、設備
- (十三) 漁業者組合規則ノ制定並之ガ獎勵指導
- (十四) 共同施設ノ助成
- (十五) 漁村ノ整備
- (十六) 監督、取締ニ關スル法令ノ制定
- (十七) 通信、殊ニ無線ノ設備、航路ノ延長、氣象觀測ノ整備

五、南洋水産政策

漁業ハ又土地開發ノ先驅ナリ。南洋水産政策ヲ確立スルハ即チ南洋開發ヲ策スル所以ナリ。

一、南洋水産ノ統制

(一) 臺、南水域ノ協定

(二) 同業、群小經營者ノ統合

(三) 對内地生産物ノ統制

(四) 經營系統ノ統制

二、南洋水産ノ開發助成

在外漁業者ノ苦心、努力ハ蓋シ尋常ナラザルモ、而モ酬ヒラルトコロ頗ル寡薄

(一) 醫療、教育、産業等ノ設備ニ對スル助成方法ノ樹立

(二) 在外駐在員ノ人選、増置

(三) 特殊金融助成機關ノ設立

(四) 南洋水産協會ノ擴大強化

六、制度ノ改正

南洋開發ニ關シテハ官民ノ協力一致ヲ要スルハ勿論ナルモ又關係官廳特ニ拓務、農林、外務、海軍各省ノ格段ナル協力ヲ要ス

(一) 拓務、農林、外務、海軍各省ニ南洋ニ關スル部局ノ設置

(二) 南洋廳官制ノ改正

(三) 人事ノ刷新、待遇ノ改善

(四) 委員會ノ常設



一〇一五―三

中 原 幹 事

南洋群島土地開拓計畫ニ關スル意見

五月二日ノ總會ニ於テ本計畫ニ關シ生産物ノ内容ニ關シ相當ノ議論アリシモ最モ重要ナル問題ハ南洋群島ノ開發ニハ尙ホ他ニ水産、交通、通信等ノ緊急ヲ要スル諸施設アリ。南洋廳ノ貧弱ナル豫算ニテ其ノ大部分ヲ土地開拓ニ使用シ盡サバ他ノ緊要ナル施設ハ顧ミラレザルニ至ルベク此點尙研究ヲ要スル事ナリト察セラル。

本問題ニ關シ根本的ニ考慮ヲ要スル問題ハ帝國ノ實情ガ今後十年後ニ

(富井 結)

海 軍

毎年最小五十萬人内外ノ人口ヲ海外ニ移植セザルベカラザル趨勢ニア
リテ本計畫ノ如キハ實ニ九牛ノ一毛ニ過ギズ。

然モ現在表南洋ノ地ハ何レモ殆ンド移民ニ對シ禁止的制限ヲ加ヘアリ
此ガ難艱廢除ハ極メテ困難ナルモノアルニカカワラズ此ヲ突破制壓シ
テ多數ノ移植民ヲ表南洋方面ニ進出セシムルノ方途ヲ樹ツルノ外策ナ
キ情勢ニアリ我裏南洋ノ地ハ實ニ此ノ大進出ノ據點トシテノ重大使命
ヲ有スルコト既ニ論議ノ餘地ナク各種施設ハ實ニ其ノ準備ニ外ナラズ。
吾人ノ所見ヲ以テスレバ此ノ重大ナル使命ヲ達成スルニ猫額大ノ南洋
群島ヨリスル歳入ノ餘猶ヲ以テ當ラントスル所ニ根本的ニ考ヘ直スノ
要アリト認ム。少クモ此等豫算ノ半分ハ之ヲ中央政府ノ負擔、補助ニ

(富井納)

海
軍

(9. 12. 300.)

依ルノ計畫ヲ以テ進ムヲ至當トス。斯クノ如キハ南進政策ノ確立ヲ見
 バ容易ノ事タルベク現下多額ノ經費ヲ農村救済ニ投ジツツアルヲ考フ
 レバ農村救済ノ根本的方策トモナルベキ此ノ種事業ニ支出スルハ眞ニ
 意義アルコトナリト信ズ又此方策ヲ樹ツルガ將ニ本委員會ノ重大使命
 タリ。

表南洋ノ地ニ進出スルニ政治的障害打破ノタメ當方面ノ國防的威力ノ
 擴充ハ極メテ緊要ニシテ之ガタメニハ航空通信、補給、交通、漁船等
 海軍トシテノ希望モ亦尠カラザル處、^{ナリ、又、}本移植計畫程度ノモノハ帝國近
 キ將來ノ要求ニ對シテハ眞ニ九牛ノ一毛ニ過ギズ然モ此ノ程度ハ表南
 洋進出ノ推進力トシテ極メテ急ヲ要スルモノアリ^{故ニ}本計畫ト同時ニ他諸

海
軍

(富井 納)

計畫ヲ併セ考慮シ所要額ノ少クモ半額ハ此ノ際政府ノ補助ニヨルコト
 トシ補助ナキ場合ニ於テモ各方面トモ同時ニ着手シ次年度以降ニ豫算
 ヲ獲得スル等ノ方針ニテ進マレンコトヲ切望ス

(富井納)

海
軍

(9. 12. 300.)

0112



南洋開發ノ諸問題ニ就テ

委員 南洋興發株式會社々長 松江春次

南洋開發ノ諸問題ニ就テ

(一) 南洋群島ニ於ケル産業的開發ノ促進

吾ガ南洋群島ハ其ノ面積僅ニ百四十方里ニシテ沖縄縣ト伯仲ノ間ニア
 ル程度ナルモ本邦領域内ニ於ケル唯一ノ純熱帶地ナルガ故ニ熱帶事業
 ニ對スル一大試驗場トシテ獨特ノ意義アルノミナラズ面積狹少ナル群
 島自体ニ於テモ其ノ熱ト光トニ溢ル、天恵ヲ遺憾ナク利用スルニ於テ
 ハ殆ンド意想外ナル利用價值ヲ發揮シ得ルモノトス

今其一例トシテ之ヲ北緯二十三度ノ亞熱帶ナル臺灣ニ比較スルモ
 例ヘバ甘蔗ハ臺灣ニ於テハ成熟迄ニ一箇年半ヲ要スルニ拘ラズ北緯
 十五六度ノ純熱帶ナルサイパン、デミアン等ニ於テハ一年足ラズニ
 テ成熟シ而モ無肥料ニテ臺灣ト全ク同等ノ收穫ヲ擧ゲ得ル狀態ナリ

此ノ栽培期間ノ短カキ利益ハ蔗糖業ノ如ク其ノ各部門ニ亘リ高度ノ技術的進歩ヲ遂ゲ最早他ニ大ナル増産ヲ計ル餘地ナキ産業ニ在リテハ實ニ決定的利益ニシテ今ヤ本問題ハ世界ノ各主要蔗糖地ニ於テ研究セラレ印度ニ於テハ甘蔗ト禾本科植物（唐黍）トノ交配ニ依リ八箇月甘蔗ノ育成ニ迄及ベル状態ナルニ見ルモ如何ニ本問題ノ有スル經濟的意義ノ重要ナルカヲ知ルコトヲ得ベシ

斯クノ如ク南洋ハ樞メテ天恵ニ富ムヲ以テ栽培作物ニ就キテモ此ノ天恵ヲ考慮シ吾ガ領域内ニ於ケル唯一ノ熱帶地ヲ充分ニ利用スル見地ヨリシテ其ノ選擇ヲ行フベキモノニシテ例ヘバボネ産業試験場ガト多シ板園ヒヲ以テ大規模ノ米作試験ヲ行ヒ又同島ニ於テ米作ノ行ハレツ、アルガ如キハ米ハ内地ニ於ケル基本作物ニシテ且ツ近年其ノ生産

過剩ニ苦ミツ、アルガ如キ状態ニ儘ムルトキハ誠ニ不得策ト謂フノ外
ナク斯ル不經濟ナル方法ハ一掃シ宜シク南洋ニ於テハ純熱帶作物ニシ
テ且ツ比較的大面積ヲ要セザル有望作物例ヘバベツバー、海島棉、蓖
麻又ハ珍菓マングステン等ノ栽培ヲ行ヒ或ハ小無人島ニハ鹽分ヲ好ム
椰子ヲ植エ、コブラノ生産ヲ圖ル等ノ方法ヲ購ズベキモノニシテ斯ク
シテ方法宜シキヲ得バ假令小面積ナリトモ此ノ方面ニ於テ年額一千萬
圓乃至二千萬圓程度ノ生産ヲ舉ゲ輸入防遏ヲ行フコトハ困難ナラザル
ト共ニ産業ノ發展ニ伴ヒ自然過剩人口ノ移出ニモ資シ得ル次第ナリ
又南洋ハ海城宏濶魚族豐富ニシテ水産業ハ其ノ最モ有望ナル産業ノ一
ニシテ現ニ年額百五十萬圓ノ收穫ヲ舉ゲ一般ニ近年頓ニ業績擧ガリ饒
節生産ハ其ノ主タルモノニシテ前途相當ニ有望視セラル、モ素ヨリ現状

ヲ以テ満足スベキモノニアラズ南洋ハ其ノ陸上植物ノ多彩ナルガ如ク
魚族ノ種類非常ニ多ク就中鯨鮪ノ重要ナル回游點ニ當リ且ツ市場トシ
テハ蘭領印度ノミニテ七千萬ノ人口ヲ控ヘ其ノ土民ハ生活程度高カラ
ザレドモ尙ホサーデンノ鯨鮪等ヲ喜ブモノナレバサーデンノ代用トシ
テ鯨鮪ノ鯨鮪ヲ安價ニ供給スルコト、セバ其ノ需要ハ甚ダ大ナルモノ
アルベシ

以上ノ諸點並ニ表南洋ニ對スル發展ノ關係ヲ考慮シ今後南洋群島ノ產
業的開發ヲ促進スル上ニ於テ有望ナリト思ハル、新事業並ニ今後施設
擴張ヲ要スル事項ノ主要ナルモノヲ列舉スレバ左ノ如シ
サイパン地方

一サイパン築港ノ完成

サイパン、バラオヲ群島交通ノ二大重要港トシ香港新嘉坡經由南洋線ト對抗シテ對表南洋ノ貿易港トシテ發達セシメ且ツ有事ノ際ニモ備ヘサイパン港ノ築港工事ハ港内ニ少クモ六七千噸級ノ船舶數雙ヲ自由ニ入レ得ルタケノ規模ニ擴大シ其ノ完成ヲ急ク必要アリ

一、サイパン、テニアン間無線電話ノ開設

現在兩島間ノ通信連絡ノ爲メニハ官設ノ無線電話及ヒ社設ノ選光通信ノ設備アレトモ兩島ノ經濟的發展ハ是非共電話聯絡ヲ必要トスルニ至レルヲ以テ速ニ無線電話開設ノ必要アリ

尙ホ近ク内地南洋ヲ連絡スル大無線電話ノ御計畫アルヤニ仄開スルハ群島發展ノ爲メ誠ニ幸慶ニ堪ヘザル處ナリ

一、サドクターシニ餌場ヲ造ルコト

水産業ハ將來南洋ニ於ケル最モ重要ナル産業ノ一タル處餌料ノ不足ハ其ノ重大ナル障害ナルヲ以テ各地方ニ餌場ヲ設クル必要アリ
 サイパン島ニ於テハガラパンノ北サドターシノ入江ヲ利用シテ
 餌料ノ繁殖ヲ圖ルコトトシ度シ

一、アグリガン島ニ漁業根據地ヲ設クルコト

サイパンノ北ウラカス島附近ハ海島多ク魚群ノ豐富ナル處ナルヲ
 以テ此ノ中心ニ漁業根據地ヲ一箇處設置スル必要アリソレニハア
 グリガン島ヲ最良ノ候補地ト考ヘラル

一、鰹節検査所ヲ設置スルコト

南洋水産業ノ發展ニ應シ粗製漁造品ヲ排除シテ南洋鰹節ノ聲價ヲ
 維持シ其ノ健全ナル發達ヲ圖ルタメニサイパン島ニ鰹節検査所ノ

設置ヲ望ムモノナリ

一、金融機關設置ノ必要

現在南洋ニ於ケル金融機關トシテハ郵便局信用組合及ヒ不健全ナル賴母子講等ニ委セラレ産業ノ發展ニ非常ナル不便トナリツ、アルヲ以テ速ニ此ノ方面ノ施設ヲ願ヒ度シ

一、椰子殻ヨリスル特殊カーボンノ製造ヲ企業化スルコト

之ハ獨リサイパン島ニ限ラス全群島ニ適用シ得ル事業ナルカ椰子殻ヨリ吸着力強キ毒瓦斯用特殊カーボンヲ製造シ得ルヲ以テ速ニ之ヲ企業化シ度シ

一、學校、倉庫、棧橋ノ整備

サイパンノ發展ニ伴ヒ現在ノ設備ニテ不充分ナルモノトシテハ學

校ノ増設及ヒ倉庫ハ官設倉庫ヲ造リテ民間ニ貸下ケ又ハ築港工事ノ進行ト共ニ之ニ相當スル棧橋ノ構築ヲ希望ス

テニアン地方

一、アギーガン島ニ蓖麻ノ栽培ヲ行フコト

テニアン島ノ前面ニ横タハルアギーガン島ハ船付惡キモ相當面積ノ肥沃ナル栽培適地アルヲ以テ之ヲ開拓シテ蓖麻ノ栽培ヲ行ヒ飛行機油トシテ重要ナルカスター油ノ製造ヲ行ヒ度シ

一、幹線道路ノ開設

テニアン島ノソンソン街ヨリハゴイニ至ル幹線道路二本及ヒ之ト直角ニ交叉シテサイパン島ノ方向ニ向フ幹線道路數本ノ開設ハ産業道路及ヒ軍用道路トシテ緊急ノ施設ヲ要スル處ナリ

一、測候所ノ開設

サニアン島ハ産業的ニ見テ群島中最モ重要ナル地位ヲ占ムルモノナレ
ハサイパン島ト同シク測候所ノ開設ヲ希望スルモノナリ（同サニアン島ニ匹敵スルニ至リ内地人ノ數ハサ
イパンヲ凌駕スル狀態ナルヲ以テ之ニモ官立病院ヲ開設スル必要アリ）

二、公醫ノ設置

サニアン島ノ人口ハ既ニサイパン島ニ匹敵スルニ至リ内地人ノ數ハサ
イパンヲ凌駕スル狀態ナルヲ以テ之ニモ官立病院ヲ開設スル必要アリ
其ノ前提トシテ先ツ博士ノ公醫ヲ設置セラレ度ク年手當六千圓程度ヲ
支給ノコト、シ設備ハ當分會社ノ病院ヲ使用セラル、モ差支ナシ

三、學校、倉庫ノ整備

サニアン島ト同一理由ニシテ更ニ之ヨリモ一層緊急ノ必要ヲ感シツツアル
モノナリ

同多地方

一、パイヤノ栽培トパイシノ製造

ビール会社ニ利用ス

甘蔗栽培以外ノ同多ノ不用地ニハパイヤヲ植エパイシノ製造ヲ行
フコトトシ度シ從來ノ經驗ニ徴シ之ニハ嚴重ナル統制ヲ必要トスルモ
ノノ如シ

一、カカオノ栽培

同多ハカカオノ適地ナルヲ以テ此ノ企業的栽培ヲ研究シ度シ

ヤツブ地方

一、島民土地ノ整理ト其ノ利用法

ヤツブニハ死滅セル島民家族ノ土地相當アル筈ナルヲ以テ之ヲ整理シ
其ノ利用法トシテハ可耕地ニハ薯パイヤヲ栽培シ他ハ牧場ニ充テヤ

ツブ、經濟的振興ヲ齎ズルコトトシ度シ

一、餌場ノ設置

ヤツブノ入江ヲ利用シテ餌料ノ養殖ヲ行ヒ水産業ヲ起スコトヲ得ベシ

一、ツブイヌ燐礦ノ採掘

ツブイヌ燐礦ハヤツブ廳下ニ於ケル最モ重要ナル資源タルヲ以テ之ガ

拂下ヲ受ケ採掘ヲ行フニ於テハ廳下ノ開發並ニ南洋燐礦民間企業ノ強

化統制ニ資スル處大ナルベシ

パラオ地方

一、本島ノ利用方法

パラオ本島ハ面積大ナレドモ地味瘠セテ價值少シ良地ニハトバ及ビ芭

麻ノ栽培ヲ行ヒ他ハ牧場トシテ利用ノ外ナカルベシ

一、完備セル漁業根據地ヲ造ルコト

パラウ近海ハ漁業ノ寶庫タルト共ニセレベシ、ハルマヘラ、セラム、
モロツカス、ニニ、ニニ等ノ大漁場ヲ統制スベキ立場ニ在ルモノナ
ルヲ以テ此處ヲ一大漁業根據地ト爲シヨロヨロノ地立地ヲ完備シテ冷
凍倉庫水産加工場其他大規模ノ設備ヲ設クルコトハ南洋漁業發展ノ爲
メ極メテ重要ナル問題ナリ

一、パラウ中心トスル漁業ノ統制

前記ノパラウヨリセレベシ、ハルマヘラ、セラム、モロツカス、ニニ
ニニ等ニ亘ル一帯ノ海洋ハ將來南洋漁業ノ中心タルベキ重要ナル漁
場ナル處現在ノ如キ企業亂立ノ有様ハ將來ノ健全ナル發展ヲ阻害スル
モノナルヲ以テ速ニ之ヲパラウ中心トシテ一大統制ヲ行フ必要アル

ベシ

一、漁船油ノ統制

南洋石油株式會社ヲシテ漁船油ノ統制ヲ行ハシメ漁船經濟ノ合理化ニ向ハシメ度シ

一、龜甲ノ養殖

ガラコン島ハ龜甲ノ產地ナルヲ以テ龜甲ノ養殖ハ極メテ有望ナリ

一、鰐ノ養殖

鰐ハ極メテ成長ノ早キモノナレバパラオ本島ノ河岸ニ養殖場ヲ開設スレバ相當有望ナル事業トナリ鰐皮ノ輸入ヲ防止スルコトヲ得ベシ

一、離島連絡船ノ整備

パラオ附近ノ離島開發ノ機運ニ向ヒタル處現在ノ南貿ノ連絡船ノミヲ以テハ不充分ナルヲ以テ他ニ補助獎勵ノ途ヲ講ジ之ニハベリリニシ、

ボナペ地方

ソシソル、トコバイ等ノ連絡ヲ主トスルコト

一、マタラニニームノ澱粉事業完成

現在進行中ノマタラニニームニ於ケル澱粉事業ノ完成ヲ急グコト

一、パルギールノ澱粉事業計畫

マタラニニームノ完成後直チニパルギールニモ澱粉事業ヲ起スコト

一、イササイトノ椰子園ノ買収

外國人ノ所有ニ係ルイササイト^{独人系}ノ椰子園ヲ買収シテ組織的經營ヲ行フ

コト

(ムバイノ島レアリ買収ノ上進出スルアリ)

一、果樹ベツバー及ビササ椰子ノ栽培

ボナペ島ニ於ケル澱粉不用地ノ利用方法トシテハ群島隨一ノ果樹ノ適

ヤル―ト地方

一、海綿ノ養殖

地ナレバマシゴシノ栽培及ビパツパ―ノ栽培ヲ行ヒ濕地ニハサゴ
椰子ノ植林ヲ行フコトハ極メテ有望ナリ

一、シヤウガ及ビ規那ノ栽培

規ナペニハ治淋劑トシテ有名ナル藥草シヤウガノ野生アルヲ以テ之ヲ
栽培シテ布哇ヨリノ輸入ヲ防遏スルコトトシ度シ又山岳多キヲ以テ高
地ニハ規那ノ栽培有望ナルベシ

一、シヤイ島ノ利用方法

シヤイ島ニモ外國人ノ土地アルヲ以テ之ヲ買收シテ椰子園ヲ經營シ海
洋ニハ漁業及ビ眞珠ノ養殖有望ナリ

ヤル・ト地方ニハ海綿ノ養殖ニ趣スル特殊ナル海洋アヲ以テ良質ナル海綿ノ養殖ヲ行フコトトシ度シ

(二) 南洋群島居住外國人ノ處置

最近國際聯盟理事會ガ豫而吾國ノ主張セル通り聯盟脫退後ニ於テモ依然吾ガ南洋委任統治地域ノ保持ヲ是認スルニ至レルコトハ南洋問題ニ關スル重大ナル緊張ヲ解除シタルモノトシテ誠ニ慶賀ニ堪ヘザル處ナリ

然リト雖モ尙ホ港灣問題島民問題等ニ關シ聯盟ガ種々猜疑的意見ヲ發表シツ、アルコトハ委任統治地域ニ於ケル吾國ノ施政ニ何等カ公明ヲ缺クモノアルカノ如キ印象ヲ國際間ニ與ヘ帝國ノ威信ヲ傷ツクルガ如キモノアルハ甚ダ遺憾ニ堪ヘザル處ニシテ若シ此ノ爲メニ惹イテ南洋ニ於ケル國防上産業上必要ナル施設ノ工作ヲ多少ニテモ阻害スルガ如キ結果トナス、吾ガ南方國策ノ爲メ非常ナル損害ナルコトヲ憂慮スルモノナリ

南洋ノ委任統治ニ關シ兎角吾國ノ不利益ヲ圖ラントスルガ如キ諸諜報ハ現在群島ニ

居住シツ、アル左ノ如キ外國人ノ手許ヨリ主トシテ出デタルモノナラントノ疑アルモノナルヲ以テ南方國策ノ遂行上ニハ速ニ斯ル外國人ノ處分ヲ行フ必要アルモノト考ヘラル

二、グレゴリ

之ハ外國人ニアラズサイパン島ニ居住スル島民ニシテ邦名五郎ト呼バレ島民中最高ノインテリニシテ英語獨逸語西班牙語馬來語等ヲ能クシ而モ頗ル奸惡ナル性質ヲ有シ南洋群島ヲ旅行スル外人ガ必ラズ彼ヲ訪問シ密談ヲ遂グル點ヨリ見レバ外人間ニハ相當開コエタルスパイナリト思ハル、モノナレバ斯ル危險ナル存在ハ一刻モ速ニ適當ノ處置ヲ講ズル必要アルベシ

三、イチサイト

之ハボサベ島ニ居住セル獨逸人ニシテ現在ハ白耳義系ノ未亡人ニ依リ數百町歩

ノ椰子園ヲ所有シ此ノ地方ニ關スル情報ヲ外人ニ供給シツ、アルモノナリ之ハ
前ヨリ椰子園ヲ賣リテ歸國ノ希望アルモノナルヲ以テ相當高價ニ買收スルモ速
ニ斯ル不利益ナル存在ヲ群島ヨリ退去セシムルコトハ國家ノ得策ナルベシ

一、ハーマン

クザイ島ニ居住スル米人ニシテ虚偽ノ通信ヲ行ヒ吾國ノ國際關係ノ惡化ヲ計ラ
ントスル疑アルモノナレバ充分調査ノ上適當ナル處置ヲ必要トスルモノナリ
以上ハ吾國ニトリ何レモ不利益ナル存在ニシテ之ヲ放任セバ千丈ノ堤モ蟻ノ一穴ヨ
リノ譬ノ如ク如何ナル惡戯ヲ爲サンモ計リ難キヲ以テ充分ナル調査ハ素ヨリナガラ
速ニ適當ナル處置ヲ講ズルコト萬全ナリト考ヘラル

(三) 表南洋進出ノ具体的方策

吾ガ南方國策ノ終局的目標ハ南洋群島ヲ基礎階梯トシテ東部蘭領印度ニ對スル進出

ヲ行ヒ吾國ノ人口問題並ニ資源問題ノ解決ヲ期スルニ在ルコトハ茲ニ贅言ヲ要セザル處ナリ

東部蘭領印度ハ距離近ク地域宏濶資源豊富人口稀薄且ツ氣候極メテ溫和ニシテ就中ニユーギニア及ビアンボイナ地方ノ如キ我國民ノ發展地トシテ實ニ垂涎措ク能ハザル地方多シト雖モ蘭印政府ハ本邦事業會社ノ進出ニ對シ極度ニ神經過敏トナリツ、アルヲ以テ根本的ナル表南洋發展策ハ暫ク控ヘ先ツ徐々ニ蘭印ノ誤解ヲ解キ日蘭共同開拓ノ利益ヲ充分ニ説得シテ日蘭合辦其他蘭人ノ安心スル方法ニ依リテ徐々ニ表南洋進出ノ方策ヲ廻ラスノ外ニ方法ナキモノト考ヘラル

就而先ツ其ノ過渡的方法トシテハ東部蘭印ノ各地ニ多年居住シ相當ノ地盤ト土地其他ニ關スル既得權ヲ有スル邦人ヲ援助シ之ヲ基礎トシテ確實ナル發展ヲ講ズルコトハ最も實行性アル處ニシテ此ノ意味ニ於テ先ツ充分援助スベキ邦人居住者ヲ擧グレ

バ左ノ如シ

地 方	居 住 地	氏 名	事 業 其 他
ニューギニア	フアクフアク	西 角 氏	雑 貨
セラム	サルミ	海 老 名 氏	綿 花 栽 培
セラム	アングイナ	北野國松氏	雑貨及漁業
アローアイランド	ド	矢倉英五郎氏	雑貨及運輸業
ハルマヘラ	タルナデ	江川俊治氏	雑貨農園
セレベス	マンギット	田 中 氏	雑 貨
セレベス	マンギット	柴田鐵四郎氏	柳 子 園

セレベス	バナード	大岩勇氏	漁業
ブートン	和田氏	カボツク栽培	

右ハ何レモ夫々ノ地方ニ多年居住シ邦人ノ表南洋發展ニ對スル先驅者トシテ尊敬スベキ經歷ヲ有スル人々ニシテ蘭印政府並ニ土民ノ信用ヲ博シ相當ノ事業ヲ經營シツツアルモノナレドモ何レモ個人ノ獨力經營ニテ資金難ニ苦ミツ、アルモノナレバ之ニ資金的援助ヲ與フルコトハ此等先驅者ノ努力ニ有終ノ成果ヲ結バシムルモノナルト共ニ經營者名義ヲ變更スルコトナク有數ノ經營援助者ヲ出シテ其ノ獲得セル既得權ヲ維持發展セシムルコトニ依リ南方國策ノ重要ナル基礎ヲ培養スルコトヲ得ルモノトス蘭印政府ガ三菱石原產業南洋興發等本邦事業會社ノ進出ニ對シ極度ニ神經過敏ナルニ拘ラズ此等邦人ノ個人企業ニ對シ全ク寛大ナルハ非常ナル仕合セト謂ハザ

ルベカラズ又此等ノ重要ナル地方ニ對シテハ彼等名義ノ下ニカモアラジシ乍ラ専門家ヲ派遣シ充分ナル調査ヲ進ムルコトモ將來ノ爲メ甚ダ必要ナルコトナルベシ斯クシテ表南洋ニ對シテハ徐々ニ確實ナル地歩ヲ築キ實地ニ日蘭提携ノ利益ヲ示シ彼等ノ信用ヲ博シ惹イテ兩國間ノ完全ナル國家的提携ヲ紹來シテ此ノ地方ニ於ケル自由ナル企業的活動並ニ自由ナル移植民ヲ行ヒ得ル日ノ到來ヲ圖ルコトガ現在ニ於ケル唯一ノ平和的手段ナルモノ、如シ

以
上

昭和十年四月八日

南洋興發株式會社

取締役社長 松 江 春 次

拓務大臣 伯 爵 兒 玉 秀 雄 閣下

拜呈鑑御清輝被爲妙寧欣賀候

陳者南洋開發調査委員會竝ニ拓務局南洋課ノ新設等御省御指導ノ
下ニ南方發展方劃期的躍進ヲ開始スルノ機運ニ相副リ申候事邦家
ノ爲メ眞ニ欣快ノ至リニ堪ヘザル次第ニ奉存候
就而誠ニ滿願ニハ御座候得共賽南洋ニ於ケル拓殖事業振興ノ具体

0137

樂ニ關スル事見別紙ノ通り取極メ申候間何卒御高聞御指導賜ラバ
幸甚ノ至ニ申存候

敬具

お
形
全

タイプライター用紙復寫全葉

(日本標準規格 B.4)

東南洋ニ於ケル殖産事業ノ具體的發展策ニ就テ

東南洋ハ地域廣闊資源豊富氣候風土優良ニシテ吾國民ノ發展地トシテ最良ノ條件ヲ具備シタル地域ナルガ今日東南洋全体ヲ總シ邦人ノ居住數約三萬五千人投資總額約一億圓ニシテ之ヲ南洋ニ於ケル華僑ノ總數約五百萬人又南洋ニ投下セラレタル各國資本ノ總額約六十億圓ト稱セラルルニ比シ多大ノ軒輊アルハ南方發展ノ重大性ニ照シ最モ遺憾トスル所ニシテ今後大イニ振興ヲ要スベキ處ナリ

南方發展ニ對スル障害ハ彼ノ諸洲國ニ對スル場合ニ於ケル氣候ノ惡劣及ビ低度民族ノ競争並ニアラビヤノ場合ニ於ケル距離ノ遠隔ト云フガ如キ自然的障害ニアラズシテ左ノ如ク人爲的若シタハ一時ノ經濟的障害タルモノナレバ時世ノ變化或ハ對策宜シキヲ得バ

輕減ノ餘地ハ殆ニ大ナルモノト考ヘラル

大戦終了以來南洋ニ於ケル栽培諸事業砂糖、腰織、ゴム、
香料、蠟燭、茶等ノ非常ナル不況

ニ爲替ノ低落ハ南洋ニ對スル日本ノ輸出貿易ヲ振興セザレドモ
一國邦人ノ南洋ニ對スル投資並ニ事業經營上ニ與ヘツツアル
不利

ニ蘭領印度ニ於ケル入關稅ノ障害

南洋ノ各政府ヲ通ジテ浸透セル恐目警戒ノ空氣

此ノ内先ツ第一ノ南洋ニ於ケル栽培事業ノ不況ハ昭和九年ヲ轉機
トシテ本年ニ入リテ稍々回復ノ徵候ヲ示シ第二ノ爲替ニ就テモ最
近金本位ブロツタノ決演ヨリ對蘭爲替ノ回復ヲ期待シ得ルニ至リ
此ノ二條件ハ好轉ノ機運ヲ迎フルニ至リタルモノナレドモ第三ノ
蘭印ニ於ケル入關稅ノ障害就中第四ノ南洋各政府ニ與ル恐目警戒

ノ空氣ニ應リテハ南方發展ニ對スル最も重大ナル障害タルモノニシ
テ最近比律賓ダバオニ於ケル土地問題新嘉坡ニ於ケル軍事問題並ニ
蘭印政府硬化ノ現ハレタル蘭印通商檢閱令等ノ示スガ如ク南方發展
ヲ阻害スルコト實ニ大ナルモノアル處ナリ

斯クノ如ク種々重大ナル困難ノ内ニ除キニ吾ガ國民南進ノ歩ヲ進ム
ルニハ其ノ具体的方法ニ就テ慎重ナル考慮ヲ要スル處ニシテ現在東
南洋ノ各地ニ多年居住シ相當ノ地盤ト土地其他ニ關スル既得權ヲ有
スル邦人ニシテ實力ナク且ツ日進月歩ノ大勢ニ取リ殘サレ長給セル
モノ多シ故ニ先ツ此等ノ人ヲ援助シ之ニ資金ヲ供給シ技術者ヲ入レ
又船舶其他ノ利便ヲ與ヘテ漸次此等ノ邦人ノ既設事業ノ強化擴大ヲ
圖ルコトハ最も確實且ツ實行性アル南方發展策ナリト信スルモノナ
リ此カル方針ノ下ニ當社ハ東部蘭印方面ニ於テ既ニ左ノ邦人事業ヲ
傘下ニ收メ何レモ相當ノ成績ヲ擧ゲ得ル確信ヲ得ルニ至レリ

地方	氏名	援助事業
ミニーギニア	海老名 莊次郎氏	棉花栽培
セラム	北野 國松氏	雜貨、ダイヤモンド、コブラ貿易
ハルマヘラ	江川 俊治氏	農園及ビ雜貨ダイヤモンド貿易 目下ダイヤモンド鞍山事業ノ計畫進行中
セレベス	大岩 勇氏	漁業
・	柴田 鐵四郎氏	椰子栽培及ビコブラ貿易
ド	山見 甚太郎氏	眞珠採集

タイプライター用紙復寫全案

(日本標準規格B4)

之ハ既ニ基礎アル事業ヲ強化スルモノナレバ比較的容易ナルト共ニ此等ノ邦人ハ
地方官憲並ニ主人ニ對シ多大ノ信用ヲ博シツツアル人々ナレバ擴張ヲ圖ルニモ便
宜多ク且ツ急日警戒ノ神經ヲ刺戟スルコト最も妙ヲ結局最も確實ニシテ實行性ア
ル表南洋發展策ト稱フコトヲ得ルモノト信ズ今大南洋ニ於ケル邦人事業ヲ振興ス
ルニ投資額ニ於テ九割ヲ占ムルハ糖、椰子、麻、砂糖、茶、錫等ノ栽培事業
ニシテ昭和五年度ノ調査ニ基キ其ノ金額數三三〇ヲ算シ他ニ主ナルモノハ林産業
銀業、水産業、湖工業等ナリ

表南洋邦人主要事業表

地 名	栽培事業	林産業	銀業	計	備 考
比 律 賓	四八	七		五五	水産業並ニ湖工業ニ 就キテハ計上困難

馬 車	ス マ ト ラ	爪 趾	ボ ル ネ オ	セ レ ベ ス	ニ ューギニア	通 船	計
一五八	五五	一五	八〇	二〇	五	一	五五〇
一	五		五	一		一	一五
二		一	一				四
一四一	二七	一六	八四	二一	五	二	五四九

打 移 律

爾シテ此等ノ邦人事業ヲ通観スルニ其處ニ由ラ資本的地方的ニ割然タル分野アルヲ發見シ得ルモノナリ爾シテ各分野ニ於テ根據的立場ニ立つ事業會社ヲ選擇シ此

タイプライター用紙復寫全葉

(日本標準規格B.4)

等ノ有力會社ヲシテ其ノ地域内ニ於ケル一般邦人事業ノ發展ヲ助成セシムルコト
トシ更ニ之ヲ拓務省ノ保護統制ノ下ニ置クコトトセバ南洋ニ於ケル吾ガ拓務事業
ノ進展ハ固ヨリ新ニスルコトヲ得ルモノト信ズルナリ（國策ハ關係複雜ナレバ本
國國ヨリ除外ス）

此等ノ會社ハ例ヘバ

比律賓ニ於テハ	太田興業、古川拓殖、比律賓木材輸出
馬來半島ニ於テハ	石原産業、日本礦業、熱帶産業、三五公司
スマトラニ於テハ	野村東洋炭礦、スマトラ興業、大倉炭礦
爪哇ニ於テハ	南國産業、ケダレン炭礦
ボルネオ島ニ於テハ	南洋林業、ボルネオ石油

セレス以東ニ於テハ 南洋興設

等ナルガ多ク大資本ノ背景ヲ有スルモノナルヲ以テ此等ノ會社ガ第一級ニ立チ背
後ノ大資本並ニ其ノ又背後ニ拓務省ノ強力ナル特施ト歸護並ニ其省下ノ臺灣總督
府南洋廳ノ協力ヲ得テ各地域ニ於ケル邦人事業ノ助成ニ傾倒スルニ於テハ南洋事
業ノ全般約圖鑑ハ期シテ待ツベキ處ニシテ之ニ對シ更ニ南洋事業ノ全般ニ關係深
キ臺灣銀行、三井物産、三菱商事等ハ國家的立場ヨリ資金約協力ニ任ズルコトト
シタタ尙本同一地域内ニ二個以上ノ有力會社アル場合ハ更ニ其ノ地域ヲ細分スル
カ或ハ其ノ共同ヲ以テ別個ノ機關ヲ設ケシムルコトセバ可ナルベシ

要之本案ノ趣旨ハ南方發展ノ重大性ニ鑑ミ有力會社ハ或程度ノ犧牲ニ甘シシ南洋
事業ノ全周約一大躍進ヲ企圖スル點ニ在ルモノニシテ本案ノ成否ハ一ニ懸リテ此

等ノ有力會社ガ南方發展ノ國家的意圖ヲ理解シ之ニ協力スル精神ノ如何ニ寄
スルモノナレバ先ヅ此ノ點ニ就キテ拓務省ノ指導ト統制トニ俟ツ處甚々大ナルモ
ノアルハ當ヲ俟タザル處ナリ

以
上

秘

0147

19

第一部第一分科タル「對南方方策」ニ付

一、本委員會ニ於テ論ズベキ「對南方方策」トハ諸種ノ事情ヲ考慮
スルトキハ我國トシテノ東南洋ニ對スル方策中群島ト連關ヲ
有シ且之ヲ利用シ之ヲ活用スルヲ之ガ目的達成上得策トスベキ
部分ニ關スル方策ト解シ度シ。即チ對南洋方策上ニ於ケル群島
ノ使命ノ論究ニアリト考フ

一、上述ノ見地ヨリセバ

イ、戰略上ニ於ケル群島ノ使命、地位ノ考究

ロ、産業經濟上ニ於ケル群島ノ使命即チ群島ノ自然的其ノ他ノ
事情ヲ考慮ノ上東南洋ニ對スル貿易ヲ進展シ移植民及殖産事

石

務

省

業ヲ進展セシムル上ニ於テ群島ヲ利用シ之ヲ活用スルヲ得策
トスル方策ノ考究

ニ大別シ得ルモノト考ヘラル
而シテ右ノ見地ヨリ群島ヲ利用活用スルヲ得策ト一應考ヘラル
ルモノヲ参考途ニ舉グルニ

イ、水産根據地トシテ 但シ之ヲ根據トシテ進出スル方面ノ各
般ノ事情ヲモ考慮ユスレ大體ニユーギニア、セレベス及オ
ストラリア方面ヲ可トスベシ

ロ、南洋産業研究機關ノ設置地トシテ

ハ、群島ニ對スル内地ヨリノ移植民ガ假ニ可能ナリトセバ將來

タイプライター用紙

(日本標準規格 B. 4)

海軍省經理局長

此等ノ中ヨリ表南洋適當ノ地方ニ移植セシムベキ試験地トシテ

ニ、表南洋ニ於ケル移植民及拓殖事業ノ生産物ノ處理ヲ同群島ニ於テ行フヲ有利ナルモノアリトセバ其ノ加工地トシテ

（表南洋ニ於ケル云々ノ表南洋ハ各般ノ事情ヨリ主トシテニユーギニア、セレベス方面ヲ主トスルヲ可トスベシ）

亦、群島ニ近キ蘭領（ニユーギニア、セレベス、オーストラリア方面）ニ於ケル移植民及拓殖事業ニ對スル技術的、物的其ノ他ノ援助ノ根據地トシテ

南洋群島石油消費量調査		南洋石油株式會社
南洋廳		八〇〇噸
南洋興發株式會社		四七六噸
南洋貿易株式會社		四二七噸
漁船七十般消費量三九一八噸中南洋興發南洋貿易ノ供給量六五九噸ヲ差引ケル量		三二五九噸
計		三九六二噸
備考		
近キ將來ニ於テ南洋興發株式會社事業擴張ニ伴フ増加見込額		
約四五〇噸・南洋廳電燈事業擴張ニ伴フ消費量モ相當増加ス		
ル見込ナリ又昭和七年以前五ヶ年間ノ移入量ヲ調査スルニ毎		
年平均二割以上ノ増加率ヲ示セリ		

以上消費量ハ委任統治領ノミノ最少見積數量ニシテタンク散
 置地ニ密接ナル干係ヲ有スルメナード、タバコ、ユニーギユ
 ア方面ニ於ケル邦人經營ノ漁業眞珠貝採取、麻工業等ニ使用
 スル重油モ相當數量ニ上リ之カ供給ハ可能且有利ト認ムルモ
 消費量判明セサルヲ以テ假ニ除外セリ又當社ハ重油ノ外石油
 機油等ノ販賣ヲナスモ之又假ニ計算外トセリ

0152

保管料算出基礎						
區分	本業費	補助額			計	
		償却費	利	子		
敷地	¥10000	歩合	金額	基本額	同上ノ利子	サニ二〇年 バニ二〇年
タンク ニ基	¥6000	ノ二十年 金額	¥800	¥6000	(方) 九三三	應當一八圓
パイジ ニ隻	¥1000	ノ二十年 ノ 10	¥10	¥100	計 ¥1010圓 ノ三分五厘	一〇〇噸 三三〇〇〇圓 五〇噸 一七〇〇〇圓
パイプ ニ架橋等	¥1000	・	¥10	¥100	計 ¥1010圓 ノ三分五厘	パイプ橋一〇〇米管三〇〇米 サ管 五〇米
ポンプ ニ臺	¥1000	・	¥10	¥100	圓 ¥1010圓	五〇噸 二臺
機械場 ニ棟	¥1000	・	¥10	¥100		七年二棟
事務所及 倉庫二棟	¥1000	・	¥10	¥100		事務所 七坪 倉庫 一三坪
計						

(9. 1 300.)

海 軍 (花崎納)

海軍
(石黑納)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>